

■ やっていききたいという覚悟を決めると、家族は応援してくれるようになった  
 奥秋委員(以下敬称略) 皆さん、それぞれの活動で苦労されていることもあるかと思えます。家族の理解や応援はいかがでしょうか。

■ 三枝さん(以下敬称略) 自宅の梅の加工・販売を始めたのは約8年前ですが、当時、梅がたくさん実り、家では使いきれずにパタパタと熟した梅が庭に落ちていました。「これはもったいないな」と思い、友人の後押しもあり始めました。

■ 小林さん(以下敬称略) 約7年前から都留市農林産物直売所出品者組合(以下「田原の直売所」)に出品していますが、農作物を自宅で加工するために保健所に申請した際に、流しや蛇口が2つなければならぬなど、施設の整備が大変でした。ただ、こんなにやくや漬け物、ジャムなどは保健所への申請が必要なく、今のままの台所で加工できるので始めました。

■ 賀川委員(以下敬称略) 自分で育てている作物などを自宅で加工する際、保健所への申請手続きや施設の整備が大変だというイメージがありました。漬け物やジャムでしたら、そんなことはないですね。自家製のおいしいものを商品として出荷できるのは魅力です。

■ 志村委員長(以下敬称略) 都留市内で農作物を育てている人は多いですね。ただ、皆さんの場合はそれを自ら加工し付加価値をつけて販売されています。そのような活動のきっかけは何でしょうか。

■ 上田さん(以下敬称略) 以前からお菓子やパンを作ることが好きで、いつか都留でカフェをオープンすることが目標なのですが、今は資金もなく、まずは自分で自信と力をつけてからと思いい、製造販売という形でお菓子和天然酵母パンを作り始めました。

■ 皆さんの活動のきっかけは？



# はばたき

「はばたき」とは、男女共同参画社会を実現するため、平成16年度から年1回発行している都留市男女参画推進委員会の機関紙です。平成23年度より、広報つるの特集として掲載しています。

都留市では、リニア見学センター近くの大原地区に、平成28年度中に完成予定の大規模な農林産物直売所(「道の駅」登録予定)を建設する事業を進めています。今回は、農林産物直売所(以下「建設予定の直売所」)の開設に向けて、様々な場で活躍する地域の女性たちを特集します。



■ ご自宅の庭で梅を干す三枝さん。昔ながらの梅干しや梅ジャムは、ご主人や友人など多くの方の助けがあって完成したそうです。



■ 田原の直売所で自身の野菜を並べる小林さん。都留市食生活改善推進委員会の顧問も務めており、地域で幅広く活躍されています。



■ 工房で作業をする上田さん。今後、都留市と語感が似ている「トゥルシー」というハーブを都留の新たな特産品として広めることも視野に入れています。

■ 奥秋 上田さんの気持ちがお子さんにも自然と伝わり、認めてくれているんですね。

■ 賀川 小学生のお子さん2人の反応はいかがでしょうか。上田 つい最近までは、「子どもが学校で支度や夜寝るまでの世話など「私がみてあげないと」と考えていたんです。でも、もう自分たちでしっかりやれるし、私が夜や朝に工房で仕事をしている時も、「おやすみなさい」や「いってきます」などと声をかけてくれて、応援してもらっていると感じます。

■ 上田 趣味でお菓子作りをやっていた頃は、「そんなに無理して身体を壊したら子どもは誰が見るの」と言っていた母に心配されていました。主人にも心配されていましたが、私が仕事としてやっていきたいという覚悟を決めると、応援してくれるようになりました。自宅のプレハブにある工房も、主人と2人で協力してほとんど手作りで完成させました。

■ 志村 旦那さんに手伝ってもらおうと自然と笑顔になりそうです。

■ 小林 それがね、ならないんですよ。「早くして〜!」こんなにやくがこげちゃう〜!なんて騒いで(笑)

■ 三枝 梅の加工を始める前、主人は心配してあまり賛成してくれなかったけれど、押し切ってやってみました。今では、約80キロの梅を漬ける時の力仕事などを手伝ってくれるようになりました。ありがたいことですね。主人と二人で暮らしていますが、主人は庭の梅の木の手入れをして、ジャムを作る時は私が熟した梅を朝早く取りにいたりしています。夫婦共に外に出て体を動かしているのが、とても健康的ですよ。



三枝茂子さん  
東桂地域在住。自宅で作る梅を昔ながらの梅干しやジャムに加工し、ふるさと会館などの店舗にて販売。約8年前から、友人を自宅に招き梅の鑑賞などを楽しむ「梅まつり」を開催。



小林紀江さん  
東桂地域在住。都留市農林産物直売所出品者組合の運営役員を務め、主にこんにやくや野菜、漬け物などを販売。



上田聖子さん  
開地地域在住。小学生2児の母であり、今年5月に自宅のプレハブに施設を整え、お菓子と天然酵母のパンの受注販売や出張販売を行う。



賀川一枝さん



奥秋 東治さん

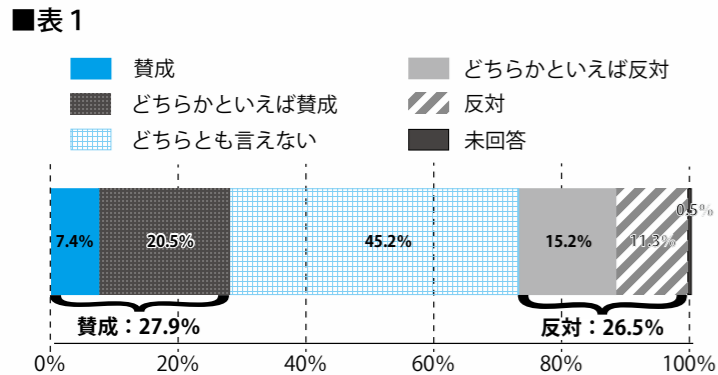


志村 邦治さん

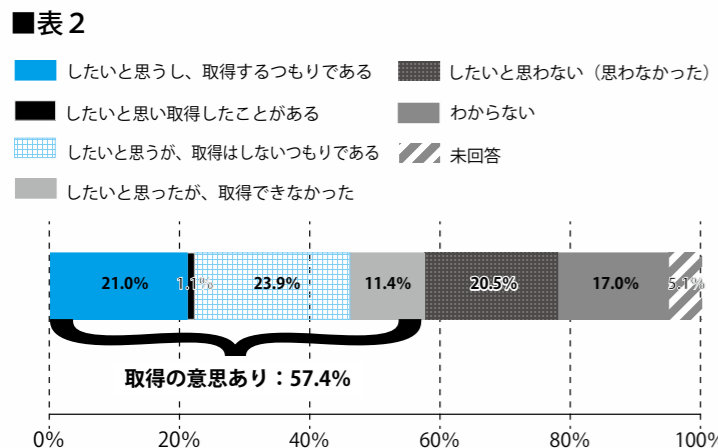
今回お話を伺った皆さん

男女共同参画推進委員の皆さん

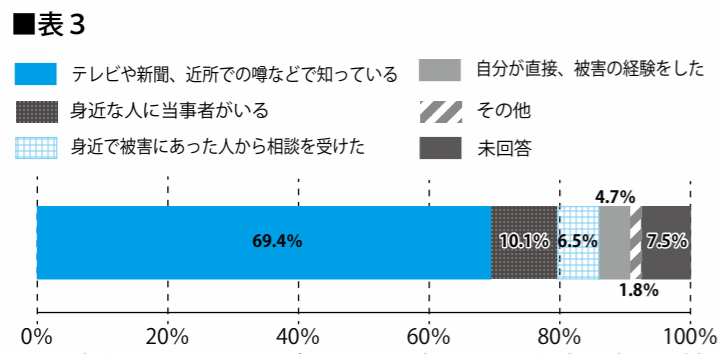
### 今年4月に男女共同参画に関する市民意識調査を実施しました！



※国(H26年実施)や県(H22年実施)による意識調査では、賛成側の考えを持つ方が反対側の考えを持つ方よりも若干多い結果となっています



※実際の取得の有無に関わらず、取得の意思がある(あった)方は半数以上になりました。



※DV(ドメスティック・バイオレンス)とは、配偶者や恋人に対する乱暴な振る舞いのことをいいます。

### 相手といると、怖いと感じたり緊張したりしていませんか？

暴力には、殴る・蹴る・髪をひっぱるなどの身体への暴力だけでなく、大声で怒鳴る・交友関係を制限する・生活費を渡さない・性行為や中絶の強要など、精神的・経済的・性的な暴力も含まれます。暴力は次第にエスカレートして、被害が深刻になることがあります。

- あなたを守るために、一人で悩まず、まず相談をしてください。
- 山梨県配偶者暴力相談支援センター女性相談所  
☎055-254-8635(年末年始を除く平日9:00～20:00)
  - 山梨県立男女共同参画推進センターびゅあ総合  
☎055-237-7830(第2・4日曜、年末年始を除く毎日9:00~17:00)
  - 市の相談窓口 健康子育て課  
☎46-5127(年末年始を除く平日9:00～17:00)

現在、国では「すべての女性が輝く社会」の実現を成長戦略の中核に据えて、地域・行政・家庭・職場などあらゆる分野における女性の活躍推進に力を入れています。本市においても、平成18年度から「都留市男女共同参画推進計画」つる「ハートフルプラン」を策定し、男女共同参画社会の実現に向けたまちづくりを進めています。この計画が平成27年度をもって終了となります。

①「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方についてどう思いますか(表1)  
この項目は国や県が行う意識調査票にも掲載される男女共同参画に関する基本的な質問といえます。グラフのとおり、「賛成」と「どちらかといえば賛成」と回答される方が27・9%、「どちらかといえば反対」「反対」と回答される方が26・5%と賛成側の考えを持つ方が反対側の考えを持つ方とほぼ同数です。

②「男性のみ回答・育児・介護休暇を取りたいと思いますか。または思ったことがありますか(表2)」  
「男女共同参画」と聞くと、女性ばかり焦点が当てられるものと思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、近年ではイクメンなど男性にとつての男女共同参画というテーマも注目されています。男性のみを対象に育児・介護休暇取得の希望の有無についてたずねたところ、「したいと思うが、取得はしないつもりである」(23・9%)と回答される方が一番多く、次いで「したいと思うし、取得するつもりである」(21・0%)、「したいと思わない(思わなかった)」(20・5%)と続きました。

③DV(ドメスティック・バイオレンス)について、見聞きしたことがありますか(表3)  
DVについてたずねたところ、「テレビや新聞、近所での噂などで知っている」と回答される方が(69・4%)が一番多くなりましたが、「自分が直接、被害の経験をした」と回答される方は4・7%となりました。今回は、市民意識調査結果報告書の一部のみを紹介しましたが、全ての結果報告は市HPで公開しています。また、地域環境課に冊子を置いてあります。ご自由にお取りいただけますので、ぜひご覧ください。  
※この記事を読んで感想などありましたら、地域環境課までお寄せください。



■建設予定の直売所への思いは？  
賀川 建設予定の直売所について、どのようにしたら市内外問わず、多くの方々で賑わう場になるのでしょうか。女性ならではの目線でアイデアがありましたら教えてください。  
三枝 都留は山が近いので、例えば山の所有者である方がサンショウやミツバなどを摘みに行つてそれを建設予定の直売所に並べられたらいいですね。特に高齢者の方がそういった形で社会とのつながりを持ち続けられたら、建設予定の直売所も賑やかになるし、高齢者の健康づくりにもつながるのではないのでしょうか。

上田 私が小さい頃、母は近所のお母さんたちと集まり、内職をしていたのですが、私も連れていってもらっていました。母たちは内職をしながらお茶を飲んだり、時々その仲間味噌作りをしたり、とても楽しそうでした。女性はそのようなコミュニケーションで何かすることが得意だと思います。  
奥秋 三枝さんのご自宅で開催されている「梅まつり」は、どのようなものなのでしょうか。  
三枝 毎年3月頃に自宅の周りの梅がたくさん咲いて、「せっかくだから皆さんに来てもらい、梅の香りに癒されてもらえたら」と思い約8年前に始めました。友人や知り合い50名ほどを自宅に招き、お茶をたてたりコーラスを歌ったりして交流しています。  
上田 そういった場には人は集まってくるのではないのでしょうか。女性はそれぞれ得意なことを持ち寄って何かをすることが得意だと思いますし、楽しみながらの延長で商売につながる可能性もあるのではないのでしょうか。建設予定の直売所は、そんなコミュニケーションがたくさん集う場になればいいですね。  
志村 小林さんが田原の直売所で培われたノウハウはいいのでしょうか。  
小林 田原の直売所では、各地域でイベントなどがある際にブースを出店し野菜などを売っていますが、自分から動いてお客さんの元へ行き、必ず試食をしてみようようにしていますよ。タイミングもあって、通り過ぎる人によたらと声をかけても上手くいかないんで

す。自然体で、自分をあまり出さずにお客さんに寄りそうような気持ちが大事だと思います。  
■女性が地域で活躍するためには「気持ち」を「外」におくこと  
志村 最後に、都留で女性が活躍するためにどのようなことが必要だと思いますか。  
小林 いつも前向きでいること、気持ちを外におくことです。そうすれば自然に仲間もできるし仕事も頼まれます。毎朝、田原の直売所にいけば「おはよう」とか「今日も元気だね」とかお客さんや色々な人と話をすると楽しいですよ。  
三枝 梅の加工や販売、「梅まつり」の開催は「自分だけではなく誰かに届けたい、見てもらいたい」という思いで始めたので、気持ちが外に向いていていいのではないかなと思います。  
上田 例えば女性が「自分でこれを持ってみよう」と思いながらも自信が持てない時でも、コミュニケーションを作り仲間得意なものを持ち寄ってやってみると、上手くできたりするのではないのでしょうか。一人で何かする自信がなくても、支えてくれるコミュニケーションの仲間や家族の力がある。そうやって活躍する場が広がればいいなと思います。  
※ジャムは包装形態・用途で保健所への申請の必要の有無が変わります。詳しくは産業課 農林振興担当までお問い合わせください。

### ～都留市の農林産物直売所建設プロジェクトリーダー妹尾 薫さんより～

都留では積極的な活動をされている女性が多いと以前から色々な方に伺っていました。今回記事を見させていただき、覚悟を持って日々活動されている皆さんは魅力ある素敵な女性だと感じました。女性が輝くことが今後の日本を良くする原動力であり、都留での地域活性化につながります。女性が活躍できる場所を直売所に創ることは、運営課題の一つです。直売所のお客さまは、男性よりも圧倒的に女性が多く、買い物の購入決定権はほとんど女性が握っているのが現状です。私の家庭でも妻に財布を握られていました(笑)。製造許可申請や加工・販売活動等を1人で行うことは大変ですので、今後、県男女共同参画推進センターびゅあ富士と連携しながら、経験なくゼロから直売所出荷を希望される方を支援していく予定です。女性の活躍なしでは直売所運営も成り立ちません。一緒に都留市と直売所を盛り上げていきましょう！